

そして、その会社を売ってしまい、手にした莫大な資金をつかってテスラ・モーターズを立ち上げます。会社に泊まり込んで24時間働く勢いで、電気自動車を作り上げていきました。

今彼が取り組んでいることは、再利用可能な宇宙ロケット（昨年、野口総一郎さんを国際宇宙ステーションに運んだクルー・ドラゴン）です。他にも、トンネルの中を超高速で走る車などにも取り組んでいます。

彼の言葉を勉強しました。
「常に多忙であれ」：会社に泊まり込んでまで、仕事をした。人の倍働けば、倍の貢献ができる。
「常に批判を求めよ」：批判の中に仕事を進めるヒントが一杯つまっている。

彼の興味は今のところ「インターネット、クリーンエネルギー、宇宙事業です」というまとめが

あって、テスラ・モデル3の見学会が始まりました。

2限目 見学試乗会



スマホを使って、ドアロックを解除したり、ボンネットを開けたり、狭い場所に駐車させるときは、運転者が車外から車を操ることもできるのです。生徒たちは興味津々で乗り込んで、音楽を聴いたり、モニター画面に映る焚火に手をかざしたりしていました。日本の充電装置と



テスラ・モデル3をつなぐアダプターを写真に撮る電気自動車マニアもいました。

運転者の前にはスピードメーター、タコメーター、カーナビなどありません。あるのは生徒が

持っているiPadより一回り大きいタブレット端末です。この端末で、ナビも含めてほとんどすべての操作が可能です。

前のボンネットを開けてもらいました。ガソリン車ならエンジンと電気系統のコードが錯綜しています。テスラ・モデル3の前ボンネットの中はこれです。いわゆる収納庫なのです。



3限 私たちの生活で

無事見学会も終わり教室に戻って、「資源やエネルギーを無駄にしない方法」について考えました。

箱守先生から「天水尊」という雨水タンクの利用について教えてもらいました。「天水＝雨水」を「尊ぶ」という概念で、家に降る雨を樋でためるシステムです。ためた水は打ち水や緑化活動、防火用水としても使われるそうです。

生徒たちがいくつかのアイディ

アを出してくれました。

私たちの考えるエコとは

- 「音をエネルギーに変える」
- 「人の動きを電気に変える」
- 「必要以上に食物を買わない・作らない」
- 「ガソリン車をやめて、電気や水素自動車にする」

水素自動車とは

水素と酸素を反応させて水、熱、電気を作り、水と熱は捨てて電気でモーターを回して走るのが水素自動車（燃料電池車）です。今のところ水素は大量の電気を使って水を電気分解し、作られているため高価です。水素ステーションも昨年7月の段階では全国に135か所しかありません。

もっと、水素を安価で作るシステム（ごみ処理場や石油精製工場でする水素を利用する）と水素販売網ができていかなければ、なかなか地球に優しい乗り物にはなりえないでしょう。

何がエコなのかは、全体的な

姿を見なければ言えないことがわかりました。

地球に優しい生活が、私たちの今の生活を持続させられることを忘れないようにしたいものです。



参加者の感想

- 電気自動車に乗れてよかった。(男子)
- 再生可能エネルギーが、こんなに種類多いことに驚いた。日本は世界の中でもあまり再生可能エネルギーが使われていないので、もっと使った方が、地球温暖化が少しでも無くなっていくと思う。今回の電気自動車は音楽も聴けて、音声で道案内が出来るのが凄いなと思った。自動運転の技術はまだまだ先になるかもしれないけれど、「もっと役立てられて、事故など減るといいな。」と思った。(女子)